



# いきいき茨城ゆめ国体2019

第74回国民体育大会

翔べ 羽ばたけ そして未来へ

## 第74回大会 TEAM FUKUOKA NEWS



福岡県選手団サポートニュース R1. 9. 16 Vol.4

### 入賞ラッシュが止まらない！水泳競技！



第3号のニューズレターでもお伝えしたが、14日（土）の開始初日から7名と2つのフリーリレーにおいて入賞を果たした競泳チーム。2日目となる15日も入賞者が相次いでいる。やはり注目は昨日、少年女子A200m平泳ぎで優勝を飾った石原愛依選手（柳川高校）。15日（日）に行われた少年女子A400m個人メドレーにおいても2位という好成績をおさめた。試合後、石原選手本人に「昨年と比較した今年の意気込み」について聞いてみると「心も身体も強くなった」「高校生最後の国体。絶対に負けたくない思いが強かった」と、笑顔で語ってくれた。高校生にしてトップアスリートとしてのオーラを放つ、これからの福岡県を背負うジュニアアスリート。今後の活躍が本当に楽しみである。なお、本日の結果は下記表を参照していただきたい。

種別・種目	氏名	所属	順位
少年女子A400m個人メドレー	石原 愛依	柳川高等学校	2位
少年男子B50m自由形	小山 陽翔	東福岡高校	2位
成年女子100m平泳ぎ	鈴木 聡美	ミキハウス	3位
成年男子100m背泳ぎ	坂井 聖人	SEIKO	5位
少年男子A100m自由形	中杉 勇斗	常盤高等学校	5位
少年男子A400m個人メドレー	高田 航輔	九州産業大付属九州高等学校	6位
成年女子100m自由形	植野 爽音	日本体育大学	7位
成年女子100m背泳ぎ	柳 あかね	福岡大学	7位
少年男子B100m背泳ぎ	竹原 秀一	宗像市立城山中学校	8位
少年男子B4×100mメドレーリレー	竹原 秀一・坂本 淳之介・佐藤 晴輝・原 空輝選手		6位
少年女子B4×100mメドレーリレー	三村 はるな・熊川 葉穂・小山田 季未・森田 真心選手		8位



石原 愛依選手

### 笑顔の法則！ビーチバレーボール少年男子5位入賞！



やはり、追い風は吹いた。14日（土）に見事決勝トーナメント1回戦を勝利し、2回戦へと繋げたビーチバレーボール少年男子。15日（日）に行われた2回戦において来年国体を控えた鹿児島県と対戦。1セット目を22対20で落としたが、見事2セット目、3セット目と取り返し勝利を飾った。この時点でベスト8となり、入賞確実。しかし、島根県との準々決勝で立て続けに2セットを先制され惜敗。最後に残された5位・7位決定戦で東京との対戦となった。結果、2対0のストレートで東京に勝利。5位入賞というすばらしい結果を残した。

「ビーチバレーを楽しむことを第一に考えて指導してきた」

そう語る熊丸監督は、今回の国体におけるゲーム中厳しい顔一つせず、笑顔で選手を励まし続けた。立て続けに得点された後も、すぐに点数を取り返す選手の安定感は、試合を観ているこちらにも安心感を与えてくれるものだった。入賞の要因の一つは、監督の日々の考えが選手に伝わった結果だったに違いない。



佐藤凜和選手・甲斐貴大選手

### 攻めた！体操[競技]少年男子決勝！



15日（日）体操競技少年男子決勝が行われた。予選の順位により、決勝の試技順が決定。福岡県は1番手で演技をスタートした。全種目を終え、総合得点は298.600。予選では、297.050。決勝で点数を伸ばすことはできた。しかし、順位は14位と昨年の16位を超えることはできたが、入賞には及ばなかった。試合後、松浦少年男子監督はこう話した。「入賞を狙えるメンバーだからこそ、構成のレベルを上げて決勝に臨んだ。点数を伸ばすことができたが、ミスが目立った。だが、入賞が手の届く位置に近づいているのは、たしか。あと一步が届かない。来年こそは。」福井国体、茨城国体の決勝得点を見ると8位以内入賞ラインは約305～310点台。今年伸ばした手が鹿児島でしっかりと届くことを期待したい。



体操競技少年男子チーム